第４章　スタートカリキュラムについて

１　スタートカリキュラムとは

小学校へ入学した子どもが、保育所、幼稚園、認定こども園などの遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくための１学年入学当初のカリキュラムです。本市では、実施期間を４月～５月としています。

遊びや生活を通して総合的に学んでいく幼児期の教育課程と、各教科等の学習内容を系統的に学ぶ等の児童期の教育課程は、内容や進め方が大きく異なる。そこで、**入学当初は、幼児期の生活に近い活動と児童期の学び方を織り交ぜながら、幼児期の豊かな学びと育ちを踏まえて、児童が主体的に自己を発揮できるようにする場面を意図的につくることが求められる。それがスタートカリキュラムであり、幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続する重要な役割を担っている。**

（平成２９年６月　小学校学習指導要領解説　生活編より）

また、平成２９年３月改訂の小学校学習指導要領の総則や生活科及び他の教科に以下のことが明記されています。

① 幼稚園教育要領等に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫すること

② 特に、小学校入学当初においては、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと

２　スタートカリキュラムのねらい

入学したばかりの１年生が「明日も学校に来たいな」と思えるように配慮しながらカリキュラムを編成し、幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続を目指します。

スタートカリキュラムを実施することで、子どもの思いに応えることができます。

安心　幼児期に親しんだ活動や学びやすい環境づくりをすることで、子どもは安心して小学校生活をスタートすることができます。

成長　幼児期の経験を小学校の学習につなぐと、子どもは自信や意欲をもって活動し自己発揮できるようになり、その姿を認められることで、よりよく成長していきます。

自立　子ども主体の学習活動を大切にしたスタートカリキュラムを実施することで、子どもは、自分で考え、判断し、行動することを繰り返し、自立に向けて歩んでいきます。それは、小学校６年間の土台となります。

3　スタートカリキュラム編成の手順

（１）スタートカリキュラム編成のための組織をつくり、計画を立てます。
（２）保幼小の交流・連携や連絡会等から、入学予定児の育ちやこれまでの経験を把握します。
（３）保育参観の機会をもち、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を、具体的な子どもの姿として、理解します。
（４）目指す子どもの姿を具体的にテーマとして示します。
（５）目指す子どもの姿に迫れるよう、指導の見通しをもちます。
（６）学校行事や学年行事などを時間割に組み込みます。
（７）テーマに迫るため、生活科を中心として合科的・関連的な指導による各教科等の単元配列を工夫します。
※ スタートカリキュラムの例として、全体を見渡せる「一覧表」と、具体的な内容等を入れ込んだ「週案」（時間割）をＰ２６～Ｐ２８に掲載しています。特に、週案については、学校の既存のものを生かしながら、作成してみてください。

◆合科的な指導

各教科のねらいをより効果的に実現するために、単元または１コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開する。

◆関連的な指導

教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導する。

※ 編成に当たっては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（P5～P6 参照）との関連を考慮します。特に、入学当初においては、幼児期における遊びを通した総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能になるようにすることが大切です。

4　スタートカリキュラム作成上のポイント（配慮と工夫）

各小学校において、スタートカリキュラムを編成・作成する際にポイントとなる点を、以下のとおり示しました。

（１）時間割の工夫

幼児期の教育では、朝、登園してから降園するまでの生活が充実したものになるように環境を構成し、時間を活動や幼児の興味・関心に応じて配分しています。

小学校では、４５分の教科中心の授業の間に休み時間があるという生活なので、子どもの戸惑いに対応するため、次の２つの配慮や工夫が必要です。

① モジュール学習

・モジュール学習を取り入れ、子どもの実態に応じて、１５分、３０分と集中する時間を長くし、徐々に４５分の授業に慣れるようにします。

・学習内容や単元の特性だけでなく、子どもの実態、気候、行事等に応じて弾力的に時間を設定することが大切です。

② 生活科を中心とした合科的な指導や関連的な指導

・生活科における単元の「ストーリー性」を重視し、子どもの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めたり、生活科を中心とした合科的な指導や関連的な指導を積極的に取り入れたりするようにします。

（2）授業の工夫

接続期は、人（担任、友達）との関係や周囲の環境が大きく変化します。幼児期に、認め励まし、支えてくれた保育者の存在は大きく、児童期においても、それを引き継ぐよう、子どもへのきめ細かな支援や指導が大切です。

① 専科教員、各支援員、学習ボランティアなどの活用

・学校の実情に応じて、専科教員、各支援員等が授業に入ることで、一人一人の子どもにきめ細やかに対応します。

② 認め励まし、満足感や充実感をもたせる

・子どもたちができることを認めたり、励ましたりして満足感・充実感をもって学習できるようにしたり、自信をもたせたりします。自信をもつことで、子どもたちの「苦手なことにも挑戦しよう」という意欲を育てます。

③ 体験的な活動の重視

・体験的な活動、具体物操作や半具体物操作などを取り入れることで、児童にとってこれまでの経験を生かした分かりやすい授業になり、学習意欲の向上につながります。

（3）人間関係についての配慮

幼児は、様々な友達との関わりの中で多様な経験をし、よさを相互に認め合い、友達とは違う自分のよさに気付き、自己を形成していきます。特に５歳児後半では、人との関わりが急速に広がり、その中で関係が深まり、友達と協力して一つのことをやり遂げたり、トラブルを体験したりしながら、折り合いを付けること等も学んでいきます。しかし、小学校入学後は、同じ園からの友達が学級や学年にいない場合もあり、心細く感じている子どももいます。

① 学年から学級、グループ活動への移行

・学年合同やグループなどの活動を取り入れることで、親しい友達との関わりを軸に子ども同士の人間関係が広がります。

② 担任との良好な人間関係の構築

・小学校生活のスタートは、子どもたちが不安を感じがちです。教師による温かな対応をはじめ、こまめに声をかけるなど、子どもとの信頼関係を築くことを心がけます。

（4）家庭や保育所・幼稚園等との連携

特別な配慮を必要とする児童や、学校生活への適応を図ることが難しい児童の実態があることを受け、個人情報に配慮しながら、保・幼・小教職員相互の具体的な連携や家庭との連携を図り、その課題と成果をスタートカリキュラムに生かしていくことが大切です。

① 子どもたちの育ちの課題や保護者の不安の把握

・児童の円滑な小学校生活への適応を図る上で、保護者による児童への支援が重要であり、スタートカリキュラムの意義や具体的な指導について保護者に適宜説明します。入学式や

懇談会の他、連絡帳や学級だよりなどで家庭との連携を図ります。

② 保幼小連絡会（情報交換会）の活用

・入学後、保幼小連絡会を開催します。保育所・幼稚園等の教職員に児童の様子を参観してもらい、スタートカリキュラムの成果と課題を把握します。その結果をカリキュラムの修正や改善に生かします。

（５）きまりへの適応と安全への配慮

幼児期の教育では、教師・保育者や友達との集団生活を通して、体験を重ねながら規範意識が形成されていきます。

① 集団生活のきまりやルール

・子どもたちが、友達と集団で生活しながら体験を通して、きまりやルールの必要性や大切さなどを感じさせ、身に付けられるようにします。

② 安全指導の徹底

・きまりやルールは、命に関わる安全面に関するものを優先的に指導します。特に、登下校では、子どもが自分の力で危険を予測し、安全に行動することが求められます。場面や状況に即した安全な行動を具体的に教えます。また、地域の見守り隊の方にも協力をお願いします。

（６）保育所や幼稚園等での経験や学びを生かす配慮

小学校教育では、これまでの学びがどのように育まれてきたのかを見通した教育課程の編成・実施が求められます。

① 生活上必要な習慣や技能を身に付ける。

・入学までに子どもたちが経験したことや身に付けていることを生かすことで、学習への意欲を高めることができます。

② 道徳性の芽生えから学びへ

・幼児期の道徳性の芽生えをより確かなものにしていくために、集団で仲良く過ごすためには、葛藤の体験を振り返りながら、自己の発揮と自己抑制の調和のとれた自立性を育てていくことが大切です。

５　スタートカリキュラム実施上の留意点

（１）１年生の担任だけでなく、学校全体の取組とします。
（２）保幼小の連携・交流の成果を生かします。
（３）子どもの意欲・関心や、活動・人間関係の広がりに配慮します。
（４）ストーリー性が生まれるように、学習活動を組み合わせて展開します。
（５）子どもの育ちや幼児期の経験に応じた学び方をつくります。
（６）ＰＤＣＡのマネジメントサイクルに基づき、スタートカリキュラムの改善・充実を図ります。

■一覧表（例）

～子どもの「まなび」と「できる」をつなぐ～

宮崎市立　○○　小学校

（ねらい）幼児教育との連続性を踏まえ、生活科を中心とした学習活動を中心に、子どもが幼稚園等での学びや得意なことを生かしながら、安心して学校生活を送ることができるようにする。

入学前

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然・生命尊重
- 数量・図形、標識・文字
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

・スタートカリキュラムの趣旨や内容について全職員で共通理解（4月）
・要録の受け取り、児童理解や学級経営に生かすための活用（3月末）
・近隣の幼稚園等にスタートカリキュラムの情報提供をし、意見をもらう。（3月）
・情報交換（2月末）
・幼児と児童の交流活動（おもちゃ祭り10月・一日体験3月）

入学式

・幼稚園等でなじみのある手遊びや歌を歌ったり、絵本を読んだりしながら、児童の緊張をほぐす。
・入学式での返事や態度等をほめ、明日からの学校生活への自信につなげる。
・一年生の担任以外にも他の教職員や上級生等、様々な人が関わってくれることを知らせ、安心感をもたせる。
・スタートカリキュラムの趣旨や学校の取組について保護者に知らせ、保護者の安心につなげる。

4月～5月

不安 → 安心 → 成長 → 自立 → 自信

ともだち できるかな？
せんせい やさしいかな？
なにをするのかな？
べんきょう むずかしそう

1年生

生活科を中心とした合科的な指導

大単元「がっこうだいすき　たのしい○○しょうがっこう」41時間

★ いちねんせいになったよ　8時間（生4　国1.5　音1　図1　学活　0.5）
- ○ げんきに がっこうにいけるかな
- ○ がっこうの いちにちは どうなっているかな
- ○ あんぜんにきをつけて　かえれるかな
- ○ なかよく　あそべるかな

★ がっこうとともだち　18時間（生11　国3　図2　学活1　道1）
- ○ がっこうたんけんに　いこう
- ○ こうていも　たんけんしよう
- ○ たんけんしたことを　みんなではなそう
- ○ がっこうの　まわりをあるいてみよう

★ ひとつぶのたねから　15時間（生10　国2　図2　道1）
- ○ たねを　まこう
- ○ せわを　しよう
- ○ みんなに　つたえよう

★ 単元名　○ 小単元名

各学校の教科等の年間計画をもとに、合科的に扱うと効果的なものを決めましょう

ともだちいっぱいできたよ
せんせいともなかよしだよ！
かかりのしごともがんばってるよ
さんすうたのしいな！できたよ

1年生

学校大好き！たのしい○○小学校！　明日も学校に来たいな！

生活面の配慮

【始業前や休み時間】【教室の環境】
- ○ 上級生に絵本の読み聞かせをしてもらい、楽しく一日のスタートが切れるようにする。
- ○ 休み時間や昼休み等は、児童の興味・関心が高い遊び道具や材料が使えるように教室環境を整える。（絵本、紙芝居、折り紙、かるた、パズル等）

【朝の会・朝の時間】
- ○ 幼稚園等で習った歌を歌ったり手遊びをしたりして、安心して楽しめるようにする。
- ○ 健康観察では、子どもたち同士でも名前を呼び合う工夫をし、顔と名前が覚えられるようにする。

【授業と休み時間】
- ○ 45分授業にこだわらず、児童の活動の様子に合わせ、休み時間を入れたり、時間をのばしたりする。
- ○ モジュール学習を取り入れ、15分や30分の授業を組む。

【帰りの会】
- ○ 「今日のニュース」等の時間を設け、その日にあった出来事を自由に話す。
- ○ 明日の準備物等をみんなで確認し、明日への期待につなげる。

【当番・係】
- ○ 係活動は、児童の様子を見ながら。必要感に基づく形で始まるようにする。
- ○ 係の種類ややり方については、幼稚園等での経験を話し合いながら決め、主体的に取り組めるようにする。

【給食・清掃】
- ○ 幼稚園等で給食を体験している児童が増えていることから、給食開始の時期や当番について、考慮する。
- ○ 給食の配膳や清掃の方法について、幼稚園等の経験を生かし、戸惑わずに取り組めるようにする。

家庭・地域との連携

【下校時】
- ○ 1年生で地区ごと（下校方向）の班を編成し、担任や他の職員で引率し、下校指導を行う。その際、地域の見守り隊の方にも引率の協力をお願いする。
- ○ 保護者には、下校時刻等を伝え協力をお願いする。
- ○ 引率以外の見守り隊の方にも、下校時刻等を知らせ、自分の地区で下校の様子を見ていただく。

【保護者への毎日の連絡やお願い】
- ○ 入学当初は、お知らせプリントで、翌日の予定や持参物等を詳しく知らせ、不安をなくすようにする。
- ○ 学年便りや学級便り、時間割等では、学習予定や配慮事項等を詳しく知らせたり、子どもの様子（写真やコメント等）を載せたりし、保護者に学校の様子が伝わるようにする。

幼稚園等との連携

【授業参観・情報交換】
- ○ 幼稚園等の先生方に、授業参観してもらい、入学後の児童の様子について情報交換する。10の姿の共有。
- ○ 保幼小連絡会において、連携交流の計画を立てる。

【要録の活用】
- ○ 届いた要録に目を通し、児童理解に努める。特に気になる児童や配慮を要する児童については、入学前の情報交換により、具体的な手立てや指導のヒントを探る。（情報は早目に）

【相互理解】
- ○ 幼稚園等に学校便り等を定期的に届け、入学後の学校生活の様子や情報を伝える。幼稚園等の園便り等をもらい、相互に理解を深める。

※　保育所、幼稚園、認定こども園を合わせて、幼稚園等と表記

■週案（例）

4月　第1週

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
テーマ	第1週　テーマ〔がっこうだいすき　たのしい　○○しょうがっこう〕 ○学校生活で必要なきまりや約束を少しずつ覚えながら、小学校生活を楽しく過ごす。				
	○○タイム「(例) なかよしタイム」あいさつ、健康観察				
朝の活動		★なかよしタイムがはじまるよ ・手遊び・リズム体操 ※園で習った手遊び	★なかよしタイムがはじまるよ 〔学年合同〕ゲーム ※音楽専科の参加	★なかよしタイムがはじまるよ ・読み聞かせ ・楽しみながら聞く ※形態の工夫	対面式（ようこそ1年生） ・他学年との交流 ・集会での参加の態度
1		○いちねんせいになったよ 学活（0.5時間） ○なかまづくりゲーム 国語（0.5時間） ○はじめてのこくご ・みつけたものを話す 生活（1時間） ○いちねんせいになったよ ・教室にあるもの ★トイレの使い方 ※園との連携 図工（1時間） ○たのしいなおもしろいな ・自分がすきなものをかく	○いちねんせいになったよ 音楽（0.5時間） ○みんなでうたおう ・知っている歌 国語（0.5時間） ○はじめてのこくご ・みつけたものを話す 生活（1.5時間） ○いちねんせいになったよ ・学校の1日 ・あんぜんにきをつけることができるかな 書写（0.5時間） ○はじめに ・えんぴつのもちかた ・なまえをかこう	体育（1時間） ○いろいろなならびかた ・並び方 ・遊具を使って ※学年体育	学校の行事（1時間） ○からだのけんさ ・耳・鼻の検査 ・検査の受け方 ※園での経験を思い出して
2	行事（1時間） ・入学式 10:00 ・ロッカー、靴箱、傘立ての位置を知る			算数（0.5時間） ○はじめてのさんすう・絵を見て考えよう ※掲示用の絵 国語（0.5時間） ★あさ ・絵を見て話そう	国語（0.5時間） ○がっこうでやってみたいこと 算数（0.5時間） ○はじめてのさんすう ・絵を見て考えよう
3	学級活動（1時間） ・担任の名前を知る ・返事の仕方を知る			学活（0.5時間） ○がっこうのやくそく 音楽（0.5時間） ・対面式で歌う歌	道徳（1時間） ○たのしいがっこう ※関連的に指導
4		地区ごとの班編成	学年下校（地区ごと）		
		・安全な登下校について学ぶ ・安全を守ってくれる人（見守り隊）の存在を知り、あいさつの仕方を学ぶ ※保護者や見守り隊との連携を図る			

週のポイント　○単元名　・学習内容　※配慮・工夫等　モジュール　合科的指導

★ 朝の活動「なかよしタイムがはじまるよ」

学校生活のスタートでは、子どもたちの緊張がほぐれるように、幼稚園等で習った手遊び歌やリズム体操など、動きを伴う活動の時間をもつと、気持ちが安定します。入学してしばらくの間は、続けてみましょう。

★ 児童の興味・関心から学習のスタート

国語科「あさ」では、登校時に子どもたちと積極的に関わり、子どもたちから得た情報を授業に生かします。

★ トイレの使い方

園との連携を通して、和式・洋式トイレの経験を把握しておき、指導に生かします。

★ 学習環境の工夫を

一人一人が安心感をもち、生活や学習ができる学習環境を整えます。

4月　第2週

	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
テーマ	第２週　テーマ〔先生だいすき　たのしい○○しょうがっこう〕 ○学校の施設や様子がすこしずつわかりながら、小学校生活を楽しく過ごす。				
	○○タイム「(例) なかよしタイム」あいさつ、健康観察				
朝の活動	・週のはじめの朝の準備を学ぶ ・なかよしゲーム ・手遊び・ゲーム	なかよしタイムがはじまるよ ・手遊び・リズム体操 ※園で習った手遊び	６年生との対面 ・登校後等の手助けをする６年生 ・自己紹介をする	なかよしタイムがはじまるよ ・読み聞かせ ・楽しみながら聞く ※形態の工夫	なかよしタイムがはじまるよ ・手遊び・リズム体操 ※園で習った手遊び
1	書写（0.5 時間） ○なまえをかこう 国語（0.5 時間） ○なんていおうかな ・絵をみて、話す	学校の行事(1 時間) ○じぶんのからだをしろう（身体計測） ・元気に返事をする ・からだの成長に気付く	国語（１時間） ○どんなお話かな	国語（1 時間） ○どんなお話かな	○ がっこうたんけんにいこう ★２年生といっしょに 国語（１時間） ○どうぞよろしく ・自己紹介のカードを作る
2	○いちねんせいになったよ 生活（1.5 時間） ・なかよくあそべるかな	書写（0.5 時間） ○なまえをかこう 国語（0.5 時間） ○なんていおうかな ・絵をみて、どんな場面かを出し合う	算数（１時間） ○はじめてのさんすう ・えをみてかんがえよう	算数（1 時間） ○かずとすうじ ・５までのかず	生活（1.5 時間） ○がっこうたんけん ・２年生との対面式 ・２年生と一緒に ・見つけたもの、出会った人について話そう
3	音楽（0.5 時間） ・校歌をおぼえよう	算数（１時間） ○はじめてのさんすう ・えをみてかんがえよう ※挿絵や具体物を使って	図工（1 時間） ○自分のすきなものをかこう	体育（１時間） ○遊具を使って遊ぼう ○かけっこ・リレー遊び	音楽（0.5 時間） ・うたでなかよしになろう
4	学年下校（地区ごと） ・安全な登下校について学ぶ ・見守り隊の方へのあいさつの仕方を学ぶ ※保護者や見守り隊との連携を図る		学級活動（1 時間） ○楽しい給食 ・準備の仕方を知る ・配膳の仕方を知る ・食事のマナーを知る ※経験の把握	図工（1 時間） ○自分のすきなものをかこう	道徳（１時間） ○きもちのよいあいさつ
			給食開始	給食２日目	給食３日目

週のポイント　○単元名　・学習内容　※配慮・工夫等　モジュール　合科的指導

★ 合科的な指導

「２年生といっしょに」では、２年生との出会いから学校探検へと、ストーリー性をもたせ、合科的な指導を行うことで、ゆったりとした時間の中で活動ができるように配慮しています。

★ 園での生活との共通性

学校探検では、学校の公共性に目を向けることで、気持ちよく生活するためのきまりやマナーが、幼稚園や保育園等と同じようにあることに気付かせることが大切です。

7　スタートカリキュラムのマネジメント（ＰＤＣＡ）

★学校全体で育てよう！６年間の土台

計画　Plan　【～3 月】

1　校内組織を立ち上げます。
2　意義、考え方、ねらいなどを全教職員で共通理解し、保護者（入学説明会）で説明します。
3　保育所・幼稚園・認定こども園への訪問や意見交換、要録等から子どもの実態をつかみ、指導や支援、子どもの良さをつなぎます。
4　スタートカリキュラムを編成します。

〔留意点〕

・校内組織は、校長・教頭・教務主任・１年生担任・生活主任・特別支援教育コーディネーター・養護教諭などで構成します。

実施　Do　【4 月～5 月】

1　全教職員の協力体制を確立します。
2　具体的・直接的な活動や体験を取り入れるなど授業を工夫します。
3　環境の構成を工夫し、児童の心の安定を図ります。

〔留意点〕

・入学当初は、複数の教職員が１年生の教室に入れるよう学校全体で調整します。学校支援ボランティアや地域の方、保護者と連携し、自然や文化等にふれる活動を取り入れます。

評価　Check　【4 月末～5 月】

1　取組がねらいに沿っているか、子どもの姿で日々評価します。
2　学年会などで、子どもの成長する姿や指導方法について情報交換をします。

〔留意点〕

・評価の視点として、①ねらいの達成状況　②指導法・環境の構成　③児童の姿　の３つの視点で検証・評価の結果を行います。

※保育所・幼稚園・認定こども園の先生方に参観していただき、子どもの姿や指導の在り方について、気が付いたことを話し合いましょう。

改善　Action　【7 月～8 月】

1　長期休業後の学校生活への適応に向けて、夏休み明けの子どもへの指導に改善点を生かします。
2　スタートカリキュラムの改善のために、週案などの資料をデータベース化し、共有します。
3　スタートカリキュラムの評価・改善の結果等を整理します。

〔留意点〕

・９月以降保幼小の連携・交流で、次年度に向けて情報交換や意見交換を行うポイントを整理しておきます。